

私の留学体験記

広島県立高陽東高等学校 2年 西浦 礼藍 (にしうら れいあ)
留学期間 令和6年3月2日 ~ 令和6年3月15日 (14日間)
留学先 Tauraroa Area School (ファンガレイ、ニュージーランド)

私が今回の留学で学んだことは3つあります。

1つ目は、自分の意思をしっかり持つことです。私は、日本にいる時自分の意思はもっているほうだと思っていましたが、いざ留学に行くと周りの人に流されて自分の意思を伝えられなかったことがありました。言葉が通じないからとりあえずみんなに合わせておこうと考えてしまっていたからです。しかし、このままだと留学に来た意味がないと思い自分のしたいことや、自分の考えを話してみました。自分の意思を持っているとたとえ通じなかったとしても相手は、私の気持ちを考えてくれ、わかってくれたりもしました。また、私が考えたことのない視点からの意見を聞いたときは新しい考え方が身について様々な視点から考えられるようになりました。学校では先生が生徒一人一人の意見や個性を大事にしている、日本ではない雰囲気を感じることができました。日本では授業の時、間違えたら恥ずかしいという気持ちがあり周り合わせている人も多いと思います。しかしタウラロアの先生は間違えていても否定から入るのではなくその答えも受け入れてくれて間違えることに抵抗がなくなりました。言葉が通じないからこそ、自分の意思を持つことが大事なんだと強く思いました。

2つ目は、わからないことをほっとかず、わかるまで自分から話すことです。私は、ホームステイ中に何時にどこに迎えに行くから学校が終わったら待ってとよく言われました。最初は、話すこともできなくて聞き取れていないのに分かったと返事をしてしまって迎えが来ないことがありました。その時はすごく不安できちんとわかるまで聞くべきだなと学びました。初めのうちは、紙に書いてもらって理解するので精一杯でした。前の日に事前に話してくれているときは理解することができましたが、急に何時にどこまでとか、何分後に迎えに行くとかを話されると、理解できないことがありました。私はこのような経験からどんな些細なことでも完璧に理解できるまで聞いたほうが良いということを強く感じました。

3つ目は、言葉のつながりを理解することです。言葉のつながりとは、文章を読むときに単語を1単語として発音するのではなく、滑らかに繋げて発音することです。英語クラスの時、現地の先生に教えてもらってとても役に立ちました。どんなにテストの点が高くてもこれが理解できていないと英語圏では聞き取ることができません。日本でするリスニングがいくら完璧でもネイティブの人の英語を聞き取りネイティブに話せるようになるには現地に行ってよく聞くことが大切だなと思いました。また、今まで日本で学んだ発音では全く通じないこともあることを知ってやっぱり海外に行ってネイティブな発音を聞くべきだと思います。

今回の留学で自分の英語力のなさや発音の悪さを実感し、後悔や反省がありました。しかし、何も知らずに行ったからこそ学べたことや今の自分に何が足りないのかも知ることができ、今までで一番いい経験ができました。ニュージーランドに行く前よりフレンドリーになったし、固定概念にはまらず、自分の個性を大事にできるようになりました。この2週間で学び思ったこと、感じたこと、新しくできた友達を忘れずに全ての事や人に感謝し将来の夢、実現に向けてがんばっていきたいです。

